

所属・資格 体育学科・教授

申請者氏名 野口 智博

研究課題		水泳指導での「エアスイム」(陸上での泳動作シミュレーション)が泳技術獲得におよぼす影響
報告の概要	研究目的 および 研究概要	<p>コロナ禍の間, 入水しない水泳授業として, 森山(2020)は「エアスイム」による泳動作習得の事例を報告し, 生田ほか(2021, 2022)は陸上と水中の壁際で主に行う「平キック体操」を導入した指導が, 煽り足の改善や泳技術向上に効果があると報告した.</p> <p>筆者らは, 前述の2つの技術指導法プラス, 当該授業で反転授業の手法を応用した「事前動画視聴とオンデマンドテスト, 授業VTR視聴と振り返りコメントの記入」を導入した授業を, 本学体育学科専門科目スポーツ実習(水泳)で実施した. コロナ禍前の授業における個人メドレーの合格率などと比較し, 改めて新規に導入した指導法の効果を検証した.</p>
	研究の結果	<p>今年度の授業(Post条件とする)では, 毎回の準備体操の時間に「エアスイム」を3分程度導入した. コロナ禍前(pre条件とする)の指導効果については, 2019年度のスポーツ実習1(水泳)の100m個人メドレー試験の結果を参照した. 試験結果から得られた100m個人メドレーの平均泳タイムはpre(2分10秒03±46.38), post(2分12秒35±58.55)と有意な差は見られなかった. しかし, 試験未受験者を含む実技試験合格率は, pre(90.1%)よりもpost(94.2%)へと増加. 特にPostでは, 試験実施者は合格率100%を達成した.</p>
	研究の考察・反省	<p>本年度の授業における試行については, 近代4泳法の学習順序を従前のクロール・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライの順を, 実技試験での不合格者が多い平泳ぎから先に実施するグループとの比較も同時進行で行ったが, どちらも合格率が100%となり, 平泳ぎから先に始めたグループではクロールの記録の短縮も見られた結果となった. いずれも反転授業等の効果も考えられるが, 受講生のリフレクションには「家でエアスイムをやってから授業に入った」との書き込みも散見されたことから, 準備運動にエアスイムを含むことで, 動作イメージを確立させることに貢献できる可能性が考えられた. Linほか(2021)は, 難易度の高いバタフライから指導することで, 受講生のモチベーションが高くなることを示しており, 授業における水泳指導は検討の余地が多いことが明確である. 今後さらなる試行を重ね, 受講生が主体的に動機づけられ授業参加ができるスキームづくりに役立てたい.</p> <p>なお, 年度末に研究発表を実施予定なので, 他の体育系大学の授業担当者からも意見収集し, 次年度の授業改善に役立てたい.</p>
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	<p>第14回東京体育学会大会:「コロナ禍で取り入れた実技授業の方法はコロナ禍後にも効果的なのか?～水泳実技授業での「反転授業」「エアスイム」「平キック体操」導入事例～」</p> <p>○泉敏郎¹, 森山進一郎² 鈴木淳也³ 野口智博⁴, ¹帝京平成大学 ²東京学芸大学 ³玉川大学 ⁴日本大学文理学部, 令和5年3月26日, 国士舘大学世田谷キャンパス.</p>	
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	<p>「泳法指導順序が泳法の学習効果におよぼす影響～泳法の習得はクロールが先か平泳ぎが先か?～」</p> <p>○野口智博¹, 泉敏郎² ¹日本大学文理学部, ²帝京平成大学 令和5年3月26日, 国士舘大学世田谷キャンパス.</p>	